令和4年7月1日発行

清涼 せいりょう

第13号

浄土真宗　本願寺派
清涼山　善教寺
〒663-8184　西宮市鳴尾町 4-10-7
0798(48)2224
www.zenkyoji.jp

※寺報の題字は親鸞聖人のご真筆より依用

慈悲の涙

人生を生きていくなかで、私たちはさまざまな涙を流しながら生きています。うれし涙や悲しい涙、悔しい涙や時には誰にも分かってもらえない涙を流しながら。

仏さまは広大な慈悲の心をお持ちであると、お経には説かれています。「慈悲」の「慈」は、インドの古い言葉で「マイトリー」という言葉の訳語で、「純粋なる友愛」を意味しています。「悲」は「カルナー」の訳語で、他者の悲しみや痛みを共に痛んでいく心を意味していました。それは他者の痛みを自分と関係のないものとして眺めていくのではなく、わがことのように引き受けていく共感の心です。仏さまは私たちの苦悩をご自身の痛みとして受け止め、響きあう心をお持ちだからこそ、私たちのしあわせを心から願い続け、その実現のためにはたらき続けてくださるのです。阿弥陀さまという仏さまは、まさにこの慈悲の心をもって、私のいのちの痛みを共にしてくださり、「南無（まかせよ）阿弥陀仏（われに）」とはたらき続けてくださっている仏さまなのです。

昨年の十月、大切な親族を一人失いました。病気が判明してからの二年半、懸命に病と向き合ってきた彼女は、与えられたいのちを精一杯輝かせながら、眼を閉じていきました。四十七歳の生涯でした。彼女には三人の子どもがいました。一番下の子は、小学六年生。悲しみのなかで行われたお通夜で、彼は今にもこぼれ落ちそうな涙を、必死にこらえながら座っていました。

そんな姿に気づいた彼の友人たちは、お通夜が終わると彼のもとへ駆けより、彼の悲しみに寄り添うように涙を流して泣くのでした。自らを抱き寄せ、涙する友人たちの想いに気づいた彼もまた、大粒の涙を流し声を張り上げて泣きはじめたのです。ひとしきり泣いて少し落ち着いたのか、こわばっていた彼の表情はどこか安堵しているようにも見えました。

私たちは自身にそそがれる涙に、力や安心を与えられることがあります。私のことを分かってくれる存在がいる、そのことが私のいまを支えてくれるからです。阿弥陀さまは私がどんな状況にあろうとも、それがたとえ誰にも分かってもらえないような悲しみのなかにあったとしても、「つらいね、悲しいね」と私のいのちを丸ごと抱いてくださり、「南無（まかせよ）阿弥陀仏（われに）」と、浄土への人生をご一緒してくださっています。阿弥陀さまから慈悲の涙をそそがれているわが身であったことを知らされる時、私たちはこの苦悩の人生を生きていく、確かな力と安心が与えられていくのです。

副住職　釋 智顕

ご家庭で回覧し、とじて保存くだされば幸いです。

令和3年8月7日

お盆法要（歓喜会）

新型コロナウイルス感染症が拡大している現状を鑑み、昨年と同様、ご門徒のみなさまにお参りをいただいてのお盆法要は中止にする判断をしました。

お預かりしました法名紙・御仏前をお供えして、寺院関係者のみの内勤めにて読経させていただきました。

令和3年11月18日

報恩講

報恩講は浄土真宗を開かれたご開山・親鸞聖人のご命日の法要です。親鸞聖人のご恩徳を讃えながら、お念仏の教えを聞かせていただく、浄土真宗のお寺で最も大切な法要です。

しかしお盆法要と同様、新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着いていない状況を鑑み、誠に苦渋の判断ではありましたが、ご門徒のみなさまにお参りをいただいての法要は中止にする判断をしました。

みなさまからお預かりしました御仏前をお供えして、寺院関係者のみの内勤めにて読経させていただきました。

令和4年1月1日

元旦会

お盆法要・報恩講法要に引き続き、寺院関係者のみの内勤めにて、元旦会のお勤めをいたしました。

令和4年6月19日

永代経法要

今年の永代経法要もコロナ対策としまして、永代経のご懇志をご進納くださいましたご家族の方のみに限定して、お参りをいただきました。

会場内でもコロナ対策を講じながら、仏さまにお参りしていただくひと時を過ごしていただきました。一日も早く、以前のように多くのみなさまにお参りいただける日がくることを願っています。

浄土真宗Q&A

葬儀を行ってはいけない日があるのですか？

この日は「善い日だ」「悪い日だ」と聞くことがあります。たとえば、大安は何をするにしても良い日であり、反対に仏滅は悪い日だというように、結婚式などの慶事は大安を意識して行う方もいれば、友引に葬儀を行わないようにする方もいるようです。

葬儀を友引の日に行わないのは、「友を引き連れて死んでいく」と考えているからと思われます。また友引の日を休みにしている火葬場も多いため、この日に葬儀を行えない事情もあるようです。

浄土真宗にはこのような日の良し悪しをいう考え方はありません。これらはまったく根拠のない迷信です。迷信には惑わされないようにしましょう。葬儀の日を決める際には、必ずお寺に相談してください。

親鸞聖人は、「私たちは日の良し悪しを言ったり、いろいろな神様にお願いをしたり、占いに頼ったりして、自分の都合ばかりを考えている。何と悲しいことなのだろうか」と歎かれています。阿弥陀如来の願いに出あい、お念仏をいただいたことで、日の良し悪しにこだわる必要がなくなるという生き方が大切なのです。

前田 壽雄著『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』（国書刊行会）58～59頁引用

今後のお寺の法要について

しばらくの間、新型コロナウイルス感染症が拡大している現状を鑑み、お寺での法要開催を見送らせていただいてきました。法要を心待ちにしてくださっていたみなさまには、ご迷惑をおかけすることになり、誠に申し訳ありません。

まだ確定ではありませんが、今年の報恩講から法要の再開を予定しています。その際にはあらためてご案内させていただきます。心配な日々が続きますが、みなさまにはどうぞお気をつけてお過ごしください。

お寺のホームページ

お寺からのお知らせや今後の予定などに関しては、善教寺のホームページ（www.zenkyoji.jp）でも情報を公開しています。ぜひご覧ください。

善教寺仏教壮年会 婦人会のご案内

善教寺仏教壮年会・婦人会への加入はいつでも募集中です。
ご連絡をお持ちしています。仏さまのご縁で結ばれたみなさんと、お寺でのひと時を過ごされませんか？

善教寺

納骨堂・合同墓のご案内

ご門徒のみなさまからのご要望をいただき、計画が動きだしてから約 10 年の歳月がかかりましたが、ここに善教寺「光の納骨堂」ならびに合同墓「追憶廟（ついおくびょう）」が完成しました。

「光の納骨堂」の設計・監修は、世界的にも著名な建築家であります安藤忠雄氏によるものです。本当にモダンで美しい納骨堂に仕上げてくださいました。納骨堂の中央にご安置しています阿弥陀如来像は、平安佛所・仏師の江里康慧氏と京都・陶額堂によって造仏された、世界でもめずらしいひかり輝くガラス仏をお迎えしています。また各納骨壇には、ご本山である西本願寺からお迎えしたご本尊をご安置しています。

「光の納骨堂」は、完全屋内型・全面バリアフリーで、どなたでも安心してお参りしていただけます。ぜひこの場所で、大切な方に掌を合わしていただき、心温まるひと時をお過ごしくだされればうれしく思います。納骨堂・合同墓に関して何かご質問等ございましたら、善教寺までお問い合わせください。

令和４年 5月25日

ご本尊のお迎え

平安佛所・仏師の江里康慧氏と京都・陶額堂のスタッフの方々の立会いのもと、「光の納骨堂」のご本尊を無事にお迎えすることができました。

ガラスで造仏されたこのサイズの仏像は、世界でも類を見ない大変めずらしいものです。美しくひかり輝く仏さまをお迎えできたことを、寺内一同、よろこばせていただきました。ご本尊前の仏具は、ガラス造形家の友定聖雄氏に制作していただいた四具足をお飾りしています。

新発意の成長記

※「新発意」は、「しんぼっち」や「しんぼち」と読みますが、元は発心して僧になったばかりの人や、仏門に入ってから間もない人を意味していました。それが転じて、お寺の子どもをさす言葉としても使われています。

副住職夫妻の長男・尊顕は8歳。今年の4月から小学2年生になりました。次男・顕至は4歳になり、幼稚園に入園しました。

いま長男は新しい自転車の練習にはげんでいますが、次男も後ろからストライダー（幼児向け自転車）で懸命に追いかけています。お陰様で兄弟仲良く、元気に育ってくれています。コロナの影響もあり、直接お会いすることが難しい状況ですが、みなさまには今後ともお育てをいただきますよう、宜しくお願いします。

お寺の風景

親鸞聖人・旅立ちの像

境内に咲く枝垂れ桜

ご門徒の平木康英様からご寄贈いただいた枝垂れ桜です。

聖典勉強会

毎月1回・14時～

副住職が『阿弥陀経』の内容を、みなさんと一緒に読みすすめています。どなたさまもお気軽にお越しください。

（新型コロナウイルス感染症予防のため、現在、勉強会は中止しています。今後の予定に関しては直接、善教寺までお問い合わせください）

NHK文化センター（神戸教室）にて、「『歎異抄』に聞く～親鸞聖人の歩まれた道～」の講座に、副住職が毎月・第4金曜日に出講しています。

http://www.nhk-cul.co.jp/school/kobe/

NHK文化センター（梅田教室）にて、「【オンライン】ふたりの僧侶と読み解く「正信偈」～やさしく学ぶ浄土真宗～」の講座に、副住職が毎月・第2金曜日に出講しています。

https://www.nhk-cul.co.jp/programs/program_1215748.html

ご興味のある方は、いつでもご連絡ください。